矢作川流域圏懇談会「第６回山部会ＷＧ」（岡崎）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 10 月 27 日(土)
9:00 ～ 15:00
（懇親会は前日 18:00～開催）

○開催場所：
【集合】くらがり渓谷コテージ
【ＷＧ会場】農村環境改善センター

【現地見学】
デイヴィイット・ストーンズ氏自宅
（イギリス人が選んだ里山の暮らし方）

○参加者：２７名（懇親会）
２５名（ＷＧ）

(2)内容

【プログラム】
１．懇親会（26 日開催）
２．山部会ＷＧ（27 日開催）
(1) 第２回 WG 開催報告
(2) 山村再生担い手づくり事例集について
(3)東京都水道水源林の管理について
(4)木づかいガイドラインについて
(5)次回の地域部会に向けて
３．現地見学（有志のみ）
(1) イギリス人が選んだ里山の暮らし方

懇親会で出された料理

ＷＧ風景（１）

ＷＧ風景（２）

2. 主な会議内容

第６回地域部会ＷＧでは、26 日に懇親会を行い、27 日に山村担い手事例集と森づくり・木づかいガイドライン作成の進捗状況報告及び意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 山村再生担い手事例集は、本日の議論で作成手法が例示され、その手法を用いて洲崎氏が担う部分と、Ｉターンミーティングから生み出していくものの２通りで進めていくことになった。Ｉターンは、１２月上旬までに開催するものとし、今年度は、事例集の骨子作成をめざすものとした。
- ○ 森づくりガイドラインは、法的な拘束力はないが、社会的なメッセージとして発信するような紳士協定的なものとし、流域圏住民が望む森林整備のイメージを明らかにすることを共有した。
- ○ 木づかいガイドラインは、ガイドラインのターゲット、位置づけが整理され、ガイドラインに盛り込むべき材料もそろってきたので、年度末までにどこに焦点を当てていくかという絞り込みまで行うものとした。
- ○ そのために、各担当者が次回 WG までにステップアップしたものを提示する。

3. 山部会ＷＧ概要

（１） 第２回ＷＧ開催報告

蔵治座長より、前回岡崎市で行われた第２回ＷＧの振り返りを行い、その後の進捗状況等について意見交換を行った。

説明風景

意見交換（ ・ ご意見、提案 ➢ 回答 ）

- 前回森林整備ビジョンでは、当面 450ha／年の間伐を行っていくという話をしたが、搬出間伐のみが対象となるので、現状では 400ha／年弱になりそうである（権田）。
- 水環境創造プランについては、現在見直しの時期に来ており、この会議で議論する内容についても平成 26 年度以降の取り組みに組み込んでいきたい。（蜂須賀）
- 今年度から補助制度が変更になり、森林経営計画を立てて集約化施業（搬出間伐）が対象になったことから、森林組合でも意欲がある山主のみならず、すべての山主の声をかけていくスタンスになった。ただし、現状では、お金を出してまで山を管理しようする山主が少ないので、地域の山を守ろうという意識を高めていきたい。（池田）
  - ➢ 山の問題の核心をついていると思う。自分の山を自分で守るという意識が無ければ、どんな補助制度に変わっても山は良くはならないと思う。（黒田）
- 集約化しないと補助を受けられないことから、豊田市では、森づくり会議という話し合いの場を設けて、団地化（集約化）を進めている。これまで約 3500ha、200 弱の団地化を行った。（原田）
- 団地化進める上で、どちらが声かけを行っているのか。（黒田）
  - ➢ 市や森林組合からアプローチしている方が多い。（原田）
- 団地の規模はどれくらいか。（黒田）
  - ➢ 町内会のレベルである。初めは、森林組合を通じて話し合いを行ってきたがうまくいかず、町内会ベースの話し合いに変更してから話が進むようになった。（原田）
- 市の計画があるので、話し合いができると思う。計画がないと話し合いの土俵にものることができない。（黒田）
- 日本には政治機構が国から流れるものと自治会によるものの２つがあり、自治会レベルで話し合いことは重要だと思う。（城田）
- 問題としては、団地化をしたが、木材価格のさらなる下落により、当初予定した利益が確保できず、間伐自体を止めてしまうところがでてきたことである。（原田）
- 経済の話だけでなく、市民に山を理解してもらうこと、関心をもってもらうことが重要ではないか。（福山）
  - ➢ 市民に山への関心を持ってもらうために森の健康診断を行っている。来年は、額田で開催する予定なので、そのきっかけづくりになると思う。（丹羽）

（２） 山村再生担い手づくり事例集について

洲崎氏より、山村再生担い手事例集の作成についての進捗状況の説明、丹羽氏、近藤氏より、事例集の参考事例となる「伊勢・三河湾流域保全・再生調査」の概要説明を行った上で、事例集作成の進め方について意見交換を行った。

説明風景

意見交換（ ・ ご意見、提案 ➢ 回答 ）

- 再生調査では、正しく機能していなかったネットワークを正しく繋いで行動することを目的に行った。また、自然を守るためには、その地域が活性化しないと守れないということが調査を通じて感じたことである。（近藤）
  - ➢ 再生調査を簡略化した取り組みを行い、ネットワークをつくりたいと考えている。事例集についてもネットワークづくりの役に立つものにしたい。（洲崎）
- 調査手法については、いいところ取りをすればいいと思う。前回の WG で出されたＩターンミーティングも事例集の中に入ってくると思う。いくつか活動してみて、それを流域全体に広げてみてもいいと思う。（丹羽）
- 事例集に一番期待するのは、どこで何をしたい人がいるのかを分かることである。そのような情報発信をして、何らかのプロジェクトが立ち上げられればいいと思う。（今村）
- 調査にあたっては、調査のしっぱなしではなく、ずっとつきあい続けることが大事である。つながりたい人は忙しくてつながらないので、それをご用聞きをしながらつなげていくことが必要である。（近藤）
- 事例集の目的はネットワークづくりということでいいのか。（蔵治）
  - ➢ それが主要なものだと考えている。（洲崎）
- ターゲットは誰になるのか。（蔵治）
  - ➢ 都市住民。新しい相互扶助を考えていきたいのでＩターン者もその中には入ってくる。（洲崎）
- 検討にあたっては、Ｉターンミーティングとの関係を明確にした方がいいと思う。（蔵治）
  - ➢ Ｉターン者は様々な苦労をしており、その悩みと解決策など、ちょっとした後押しができるというものがあれば、これからＩターンをしたいという人にとってもいいと思う。（丹羽）
- Ｉターンミーティングはいつ頃実施する予定なのか。（蔵治）
  - ➢ 次回の WG で顔を合わせて実施したいと思う。（丹羽）
- Ｉターン以外の人も入った会にいきなり参加してＩターンミーティングをするのは、しんどいと思う。（南木）
- まずは少人数で行い、それから大きくしていった方がいいと思う。（近藤）
- それでは、WG とは別にＩターン者のみでミーティングを行うことにしたいと思うがどうか。（蔵治）
  - ➢ その方向で、12 月上旬までには開催したいと思う。（丹羽）

（３） 東京都水道水源林の管理について

森づくりガイドラインの参考として、蔵治座長より東京都水道水源林の管理についての説明を行った上で、ガイドライン作成の進め方について意見交換を行った。

意見交換（・ ご意見、提案 ➢ 回答 ）

説明風景

・ 管理は都の水道会計で行っているのか。（原田）
  ➢ そのとおりである。組織としても水道局の中に水源管理事務所を持っている。（蔵治）
・ 資料に記載されている複層林にしていくことは難しいのではないか。その整備に向けたやり方は決めているのか。（今村）
  ➢ ここで記載している複層林については、ヒノキの下にヒノキを入れるといった二段林を造成するものとは定義が違うと思う。あくまで水源涵養機能を保全することを目指して単層林はつくらないといったことを意味していると思う。（蔵治）
・ 水源涵養林がどのように管理されているのか分からない。施業のポリシーはしっかりしているのか。（城田）
  ➢ 施業を行わないことが基本であり、できるだけ天然林にしていきたいと考えているようだ。施業を行うこともあるが、それは天然林に戻すための施業である。（蔵治）
・ この事例について、矢作川流域圏の森づくりにどのように反映させるのか。（城田）
  ➢ 今日は情報提供であり、今後、反映の仕方についても話し合っていきたい。（蔵治）
・ 豊田市では、水道水源保全基金を行っていたが現在でも続けているのか。（沖）
  ➢ 現在でも続いている。たたし、これまでは、上流域の市町村の間伐事業への支援を行ってきたが、市町村合併により下流から上流域への支援というスキームでなくなってしまったため、運用に苦慮している。（原田）
・ 旧額田町でも同じような制度があったが、合併により廃止されてしまった。（福山）
・ 東京都の場合は、所有者であるため、自由裁量で目的を決めることができるが、矢作川流域圏の森林は、民地なので、なかなか同じことは難しい。（原田）
・ 森づくりガイドラインの作成を考えた場合、各自治体には森林整備のビジョンが既にあるが、その上につくるものなのか。どのように整合を図るかが問題となるのではないか。（原田）
  ➢ 自治体のビジョンの上につくるのではなく、法的な拘束力はないが、社会的なメッセージとして発信し、ガイドラインを無視できないような社会をつくりたいと思う。（蔵治）
・ 紳士協定的なものではないか。（洲崎）
・ 流域内の開発行為に対し、事前に矢水協の同意を得ることを条件にした「矢作川方式」のようなものか。（原田）
  ➢ そういったものにしたいと思う。（丹羽）
・ これまでの話し合いの中では、矢作川流域圏住民が主導するものでなければならないとい

うことで、市民企画会議がリードしてきた。そのため流域圏住民がこのように望んでいるというものを鮮明にしたいと思う。それをはっきり言おうということではないか。（黒田）

・ それでは、森づくりガイドラインについては、基本的な考え方が共有できたということでよいか。（蔵治）
  ➢ よい（全員）。

（４） 木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成方針について、根羽村森林組合の今村氏より提案を行った上で、ガイドライン作成の進め方について意見交換を行った。

意見交換（ ・ ご意見、提案 ➢ 回答 ）

説明風景

・ ちょっと細かい感じがする。こんな取り組みを行っていこうというものにしたいがどうか。また、自治体が行う部分の提案については、現状では難しい。（原田）
・ 提案内容がすべて実施できるとは考えていないので、提案した項目のうちで、これは外せないというものを教えてほしい。（今村）
  ➢ 安定的で継続的な需要を確保することが必要だと思う。（洲崎）
・ 木材利用指針については、策定している市町村が少ないことから、ここに矢作川流域材を定着させることは外せない。そこに矢作川流域圏の思いを入れたいと思う。（今村）
  ➢ 指針としてのイメージは持てると思う。岡崎でも小学校が３つ廃校になったが、公共の宿泊施設がない。そのため木材を活用するなどを盛り込むこともあると思う。（沖）
・ 材料はすべて出されたと思うので、今後の２回のＷＧの中で、焦点をしぼっていくことが必要。絞り込みにあたっては、流域圏とのつながりが明確に分かること、流域材でなければ駄目であることが理論武装できることが必要である。（蔵治）
・ ガイドラインは、流域住民がつくるのだから、こういう木のある暮らしがしたいということをガイドラインとしてまとめたらどうか。その中に木材の供給システムとか、木のある暮らしを支えるしくみがあってもいいと思う。（黒田）
・ 今後の議論に向かっては、ガイドラインを考えるチームを結成してもいいと思う。（蔵治）
  ➢ 何人かで、またたたき台をつくって、検討しあう形でいいと思う。（黒田）
・ ガイドラインについては、流域圏懇談会でつくる時にその後の具体的な展開も見据えた方がよいと思う。例えば、答志島の取り組みが奈佐の浜プロジェクトにつながったというようなことが大事であるから、このような次のステップを見据えて、考えていくことが必要である。（近藤）

（５） 次回の地域部会に向けて

これまでの意見を踏まえ、蔵治座長より、今後の進め方についての総括があった。

・ 次回ＷＧでは、各テーマの担当者が一段ステップアップしたものを提示して頂きたいと思

う。

- これまでの総括としては、山村再生担い手づくり事例集及び矢作川流域圏森づくり・木づかいガイドラインの作成に集中してきたといえる。
- 山村再生担い手事例集については、本日の議論で作成手法が例示され、その手法を用いて洲崎氏が担う部分と、Ｉターンミーティングから生み出していくものの２通りで進めていくことになった。また、今年度は、事例集の骨子はでてくると思う。
- 木づかいガイドラインについては、ガイドラインのターゲット、位置づけが整理され、ガイドラインに盛り込むべき材料もそろってきたので、年度末までにどこに焦点を当てていくかという絞り込みまではできると思う。

以上